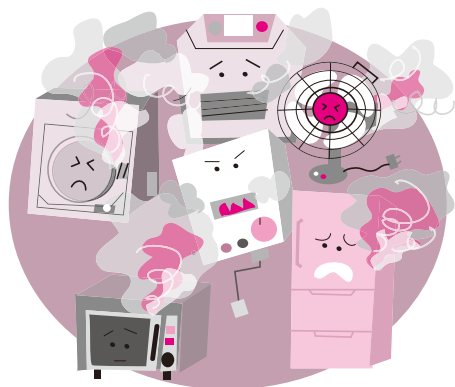


## 身近な製品事故



**Q** 製品で事故が起こった場合などに備えて対処法を知っておきたいのですが。

**A** わたしたちの生活を困むさまざまな製品に関する事故が多発しています。製品事故で被害にあったら、次のように対処してください。

- 事故製品の保存や写真による記録などをする
- メーカーや販売店などに連絡する
- 経済産業省や製品評価技術基盤機構にも報告する
  - ・経済産業省 ☎03-3501-1707 [http://www.meti.go.jp/product\\_safety/index.html](http://www.meti.go.jp/product_safety/index.html)
  - ・製品評価技術基盤機構ナイト ☎03-3481-1820 <http://www.jiko.nite.go.jp>
- 判断に迷った場合には経済産業省に問い合わせる

国では日常で起きる事故を防ぎ、安全な生活を送ることができるよう次のような取り組みを行っています（主な対象製品：家庭用電化製品、燃焼器具、レジャー用品、乳幼児用品など）。

## 事故情報の収集

製品で事故が起こったときや事故の恐れがあると思われるときは、消費者や事業者に報告してもらう

## 原因の究明

収集した情報を技術的に分析する

## 事故情報の提供

- 製品の不具合などで起きた事故、被害が発生するとと思われる事故、誤使用事故の情報を公表する
- 分析結果などを公表する
- 安全性や品質把握のために実施したテストの結果を提供する

## 事故製品の製造禁止や回収命令

事故情報の公表（新聞や各ホームページ）に注目して情報を得たり、誤使用情報などを活用することも有効です。また、製品の欠陥が原因で身体や財産に被害が生じた場合は、PL法（製造物責任法）により損害賠償を求められます。

※くわしくは消費生活センター（☎23-1161）へ。

## 3つのRでごみを削減

3Rという言葉を知っていますか？3Rはごみを減らすためのキーワードとなる言葉です。

環境問題の一つであるごみ問題。ごみの排出量はわたしたちの生活が豊かになるにつれて増加してきました。

しかし、最終処分場（埋め立て地）の許容量の問題や、ごみの焼却時に発生するCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の問題（CO<sub>2</sub>は地球温暖化の原因と考えられる温室効果ガスの一つです）、そして限りある資源の有効利用という観点からも、ごみの排出量を減らすことは環境問題を考える上で避けられないことといえます。

わたしたちは普段から次に挙げる3つのRを意識し、ごみの削減を心掛けることが大切です。

## 1、Reduce（リデュース）…ごみそのものを減らす

必要ないものは買わない（もらわない）、買い物にはバッグを持参する、過剰包装は断る、長く愛用できるものを選んで買うなど、ごみの発生量を減らす生活を心掛けましょう

## 2、Reuse（リユース）…使えるものは繰り返し使う

古着をおさがりとして利用する、いらないものはバザーやフリーマーケットに出す、修理して使えるものは修理して使うなど、不要になったものもすぐには捨てずに繰り返し使うよう心掛けましょう

## 3、Recycle（リサイクル）…ごみを資源として再利用する

最終的にごみとして捨てられてしまうものの中にも、再び資源として利用できるものがたくさんあります。限りある資源を大切にする意味でも、分別回収に進んで協力するようにしましょう



※くわしくは環境計画課（☎20-1533）へ。